



神奈川県ブロック研修会 脳血管障害、退院時に福祉用具を導入するポイントは



5月16日、ふくせん神奈川県ブロックが、研修会を開催した。テーマは、「退院時に福祉用具を導入するポイント」。今回は、脳血管障害に焦点をあてた。講師は、横浜市総合リハビリテーションセンターの清水美紀氏（地域リハビリテーション部 地域支援課）。

理学療法士である清水氏。理学療法士は、障害を持った方に対する、物理療法や関節可動域訓練、歩行動作の練習などを得意とする、医学的リハビリテーションの専門職である。清水氏は、理学療法士の視点から、身体の障害や動きの様子を中心に、退院時の福祉用具導入のポイントを説明した。

脳血管障害とは、脳出血や脳梗塞、クモ膜下出血などの総称。頭蓋内の血管（血流）の異常により、脳組織に障害が起こることによって発症する。死に至らなくても、運動麻痺や感覚障害、高次脳機能障害等が生じることが多い。このような方への福祉用具の導入について、清水氏は以下の留意点を挙げる。

運動麻痺 麻痺の程度によっては、福祉用具を片手で扱えるよう配慮が必要。

感覚障害 痛みや熱さがわからないことがあるため、ケガをしない工夫や視覚的配慮が必要。

高次脳機能障害 注意力が低下したり、使用の手順を覚えられないことがある。繰り返しの習熟や導入当初の見守りが必要。

さらに、座った姿勢を保持することや、身体をねじる運動（回旋）、両手を使う動作などが苦手になったり、足が接地しにくく、立つ・歩く動作が不安定になることがあることも覚えておかなければならない。

脳血管障害の方に歩行補助具を選ぶ際、「歩行の不具合は観察のポイントです」と清水氏は言う。「遊脚期（つま先で地を蹴り、足を振り出してから、かかとが接地するまでの時間帯）に、足の引っかかりや引きずりが見られる場合は、下肢装具がうまく使えているかを確認してください。下肢装具を使わず杖だけで歩行していると、足の引きずりを解決できないことがあります」。また、立脚期（つま先からかかとまでの一部あるいは全部が接地している時間帯）に、杖に体重がかかりすぎることがある。「杖に体重がかかってぐらつくときは、多点杖に変えて基底面を広げてみてください。体重がかかると手を痛めることがあるだけでなく、身体が傾いてなかなか良い歩行につながりません」と説明した。

ほかにも、車いすやベッド、排泄関連用具について、導入のポイントが解説された。また、具体的な事例をもとにしたポイント、留意点、課題等の説明がなされた。神奈川県ブロック長の北川貴己氏（株式会社北全）が冒頭挨拶で述べたとおり、「明日からでも現場で利用できる知識を得られる研修」となったのではないだろうか。

副ブロック長の鈴木忠氏（生活協同組合ユーコープ）は、「法人の枠を超えた研修・交流は、福祉用具専門相談員の能力の向上や情報収集のために貴重な場。ぜひ賛同して参加してほしい」と話した。また、「国の介護保険部会も動き始めました。専門職の集団が法人の枠を超え、協力して国に声をあげていく取り組みも大切だと考えています」と述べ、閉会の辞とした。次回、神奈川県ブロックの研修会は、11月14日（木）を予定している。



●講師
清水 美紀 氏
（横浜市総合リハビリテーションセンター 地域リハビリテーション部 地域支援課・理学療法士）

なお、当日は、神奈川県ブロックの臨時総会が開催された。「第1号議案 神奈川県ブロック役員について」「第2号議案 平成24年度収支決算報告について」「第3号議案 平成25年度収支予算について」すべて承認された。「第1号議案 神奈川県ブロック役員について」では、会計役員として、株式会社フジックスハートの渡邊英和氏が選出された。